

2025年度

専門学科・総合学科入学試験問題

(12月14日)

九州医療科学大学

小論文	配当時間 60分
-----	-------------

(注) 解答は別紙解答用紙に記入すること。

小論文

次の文章を読んで、家族についてのコミュニケーションをどのよ
うに捉えたか、あなたの考えをまとめなさい。

別紙解答用紙に八〇〇字以内で書きなさい。

コミュニケーションは、この世の中を生きていくための重要な手段であると同時に、生きる目的そのものでもある。仕事の場では、コミュニケーション力は重要な手段である。対話力が低ければ、生産効率が悪くなる。ミスも多くなり、職場の雰囲気も悪くなる。会社は利益を上げることが目的とした集団だ。その利益を上げるためにコミュニケーション力が必要となる。

家族の場合は、これとは事情が異なる。家族は利潤を求めているわけではない。関わり合うことそのものが目的と言える集団だ。一緒に食事をし、話をし、どこかへ一緒に遊びに行く。ホーツと一緒に部屋で寝つ転がって時を過ごすこともまた、家族のよさだ。何かを生み出すことが目的ではない。そこでは一人ひとりが優秀であるかどうかは本来重要なことではない。赤ちゃんに対して優秀かどうかを問う親はいない。赤ちゃんは手間のかかる存在だが、その世話をすることが皆の生き甲斐にもなる。家族においては、生産性よりも、感情が交流することの方が重要なのである。

私たち人間は、コミュニケーションしたいという欲求を強く持っている。一人きりになるのは寂しいし、怖い。部屋で一人静かに過ごす時間は快適なものだが、社会から全く切り離され、他人とコミュニケーションができなくなるとすれば、そのような快適さはもはやなくなるであろう。刑罰の一つに独房というものがある。一人で部屋に入れられ誰ともコミュニケーションできない状態は、人間にとっては刑罰なのである。

コミュニケーションし、感情を交わし合い、考えを語り合う。それ自体が人生の目的なのである。深い永遠の愛ばかりが人間にとって必要なものではない。気持ちを軽く伝えることができる存在が、まずほしい。何かを見て、いいなという感情が湧いたり、何かを食べて、おいしいなと思ったりしたときに、その感情を分かち合う相手が欲しくなる。その相手は、時に人間でなくとも構わない。犬は、人間のコミュニケーション欲を充たしてくれる重要なパートナーであり続けてきた。私たちは気持ちを誰かと伝え合い、あれこれと話をしなければいけない存在なのだ。

だからこそ、家族が人間にとっては重要な単位なのである。社会では能力で人間の価値がはかられるのに対し、家族の中では、基本的にはコミュニケーションする関係が求められている。

中学生くらいになって自分の部屋に閉じこもり、内側から鍵をかけ、親と交渉をしなくなる子どもがいる。これはまったく言語道断な状況だ。家族であるからには、コミュニケーションする、いわば義務がある。経済的に完全に独立しているのならば、一人暮らしをすればいいわけだが、経済的に親に依存している以上、親とはコミュニケーションする義務がある、と私は考える。

ここで経済のことを持ち出すのは、一つの方法だ。本当はお金のこととは別に、家族であればコミュニケーションを拒否することなどはまったくおかしい。思春期には、親と話すのがわずらわしく感じることもあるだろう。しかし、自分の部屋にこもってしまう子どもが多すぎる現状では、親の側はもつとコミュニケーションを子どもに要求してもいいと私は考える。「親と話してもおもしろくないから話さない」という言い分を通させすぎると、大事な話をする機会も持ちにくくなる。家族は、コミュニケーションする集団だ。コミュニケーションするから家族なのである。それを拒否したいのであれば、がんばって独立する他はない。

(出典：齋藤 孝『コミュニケーション力』より)

